

平成 30 年度第 2 回横須賀市自殺対策連絡会会議録

- ・ 日 時 平成 31 年 1 月 9 日（水）午後 3 時から午後 4 時 30 分まで
- ・ 場 所 横須賀市保健所 第 1 研修室
- ・ 主席者 阿瀬川孝治、有沢貴美栄（代理）、井元まどか（代理）、大滝紀宏、奥原孝幸、奥津和弘、小澤公雄、岸信明、工藤幸久、田中知己、塚田美保子、中島直行、橋本健司、藤尾聡允（代理）、船木一人、松岡義久、松本義弘、松山公紀、森山由美、山崎亨、湯浅亮（敬称略、五十音順）
- ・ 事務局 小林利彰 : 保健所長
梅澤徳之 : 保健所健康づくり課長
小菅俊彦 : 保健所健康づくり課ころの健康係長
桑畑小夜 : 保健所健康づくり課ころの健康係主任
岡村和憲 : 保健所健康づくり課ころの健康係
亀田千尋 : 保健所健康づくり課ころの健康係
山口雅子 : 保健所健康づくり課ころの健康係

1 開 会

2 保健所長挨拶

3 構成員の紹介

21 名参加 3 名欠席

新構成員挨拶 代理出席者 3 名紹介

4 傍聴者 2 名の報告

5 議 事

（座 長）

挨拶の後、事務局に、議事（1）の説明を求める。

(事務局)

横須賀市の自殺の状況について説明。

(座 長)

議事(1)について意見、質問はあるか。

(座 長)

警察庁自殺統計の確定値はいつ発表となるのか。

(事務局)

4月頃となる。

(大滝構成員)

女性が減少していないのが気になる。

(座 長)

高齢者の自殺が去年に比べるとやや少ない印象がある。

特になければ、議事(2)の説明を求める。

(事務局)

- ・自殺対策計画の、第1章から第5章までがパブリック・コメント対象である。11月22日～12月14日にパブリック・コメント実施し、意見募集を行ったが、意見はなかった。
- ・1月23日の自殺対策計画策定委員会で審議し、計画を委員長から市長に答申する予定である。
2月に自殺対策推進本部会議を開催し、本計画が確定する。

(座 長)

自殺対策計画策定委員会委員長でもある大滝構成員に意見をいただく。

(大滝構成員)

自殺対策計画策定委員会は、一昨年10月から開催した。

平成18年から継続している自殺対策連絡会の方向性を踏まえ、国の指針に従いつつ、横須賀独自の策定を目指した。

また、計画の基本的考えの中で、数値目標設定を重視した。

画期的な取組としては、市民1500人にアンケート調査を実施したことだ。アンケート

ト結果から市の自殺対策が殆ど周知されていないことがショックだった。重点施策は、横須賀市が特に注視しているものとなった。周産期のメンタルヘルス支援は、今後の大きな課題となっている。

(座 長)

この計画書が常に市民の傍らにあることが望ましい。来年度以降、計画が実行されるにあたり、庁内の取り組みについて、担当者が自殺対策は自分の事であると考えることが重要だ。課長会議に何か運営の工夫等あるのか。

(事務局)

それぞれが自殺対策を他人事ではなく、自分の事として考えるように会議を進める。庁内施策の評価指標を基に進行管理を行う。評価指標が含まれておらず、自殺から遠いと思われる事業にも、生きる支援関連施策の視点を持って進めたい。

(座 長)

縦割りから横につながる包括的な支援体制が確立されることが望まれる。ワンストップで解決につながる支援が求められる。

(松本構成員)

計画を読んだ人が、事業のどれが自殺の防止につながるのか、何故つながるのか分かるように。P51以降右上種別の表現を、「種別」から「自殺対策の種別」等とした方が読み手に伝わるのではないかと。

次に、働き方改革と自殺対策の連動だが、働き方改革のメニューが出そろっていない。また、外国人の受け入れ問題が進む中で、同じく具体的メニューが出そろっていない。5年計画となると、この2点のメニューを反映した計画の見直しがあるのか。国の事業毎の指針等に合わせた中間的見直しは、予定されているのか。

(事務局)

外国人については、直接的ではないが、計画に相談先を載せたパンフレットを配るなどを記載している。労働問題も関連施策として事業が挙げられている。中間見直しについて、新たな施策に関しては積極的に取り組むが、今の段階では中間の改定は予定していない。

(松本構成員)

環境基本計画などでは、中間見直しをした時に、計画に上乘せしたものを別に出している経緯もある。検討していただけると有り難い。

(座 長)

外国人労働者への雇用上の問題を含め、相談窓口はあるのか。

(事務局)

ある。

(座 長)

外国人労働者への対応では、メンタルヘルスの相談も必要に応じて通訳をつけられるのか。

(事務局)

保健所で、通訳をつけて相談を受ける体制がある。

(座 長)

議事(3)の説明を求める。

(事務局)

今後の自殺対策連絡会の運営について

来年度以降、計画の推進、計画期間5年間の新たな取り組みの検討に対応するため、2点提案し、1点を次回会議までに検討いただきたい。

提案1 組織改正について 資料3(1)、(2)、資料4(1)参照

来年度、市役所内に自殺対策推進課長会議を新設することに伴い、(仮称)自殺対策推進協議会においては、現在の構成員の市職員は、オブザーバーの位置づけとする。次に、関係機関、構成員の追加を検討している。現在の自殺対策連絡会構成員には、差し支えのない限り継続していただきたい。また、神奈川県看護協会横須賀支部、小学校校長会、中学校校長会、市民公募、高齢者福祉関係機関の新たな参入を考えている。資料3-(1)構成員イメージにあるように、ネットワークを築きつつ事業推進を目指す。新たな参入団体については、現在調整中である。

提案2 組織の名称について

自殺対策連絡会を自殺対策推進協議会に名称変更することを提案する。

提案3 会議の進行について

次回会議までに、会議の進行について意見を伺いたい。たとえばグループワークを含む等、持ち帰ってのご検討をお願いしたい。会議の開催は年2回を予定している。

(座長)

連絡会では関係機関との意見交換、情報伝達等、意義深いものだ。

個人的には、自分事として取り組む能動的な会議として意見交換ができればよいと考える。より活発な意見交換を目指し、新たな参入機関の検討も行った。参考までに、在宅療養連携会議では、在宅医療をいかに市民に知ってもらうかを目指してきた各団体が会議の中で知恵を出し合い、アクションを起こすアクティブな会議となっている。5年計画の実践に即した会議運営が求められる。

(大滝構成員)

市民の参入は基本的に賛成だ。オブザーバーとはどういう存在になるのか。

(事務局)

市職員は、これまで通りに会議に参加するが、まず関係機関の意見を中心に、会議を進める方向性を考えている。

(大滝構成員)

構成員が増えると、会としてどのようなフリーディスカッションができるのか。

現状のままでは、できることが限られてくるのではないか。

例えば、グループ分けしてワークショップの形をとるか、ワーキンググループを作るといったような工夫が必要になる。

自殺対策計画は、自殺対策連絡会と離れることなく、策定することができた。

推進の部分は自殺対策計画策定委員会が解散するため、(仮称)自殺対策推進協議会が計画を推進することになる。

(座長)

目的を明確にして、会議を進めることが望ましい。例えば市民に自殺対策を周知するというような小さな目標をたて、実現するための、グループ分けも一つの方法だ。会議の持ち方の工夫が必要と考える。

(大滝構成員)

特に、重点施策についてはグループワークが望ましい。
各施策についての議論が必要になる。

(副座長)

確認だが、自殺対策推進協議会は年2回の開催になるのか。
自殺対策計画を推進することは、多くの人を巻き込んで、新たな街づくりに
つながる。
そのためには、会議の方法・回数などあり方を考える必要があるのではないか。
報告は重要となるが、先ず方向性を明確にした議論が求められる。グループ分け
をして議論を行う等の工夫が必要だ。また、大勢で会議を行うことの意義をどう導
き出すのか、オブザーバーは意見をまとめていく事務局としても重要な役割がある。

(座長)

頻会に集まるのは難しい中で、会議をどう組み立てるか工夫が必要だ。

(松山構成員)

構成員が増える中で、漠然とした形では議論が拡散する。1回2時間、年2回で
は実効的な話し合いは難しい。グループ分けすると集まる時間を増やす等の問題
もある。ある程度テーマを絞っての会議開催も一つの方法になるのではないか。
各会のテーマを打ち出すと拡散しないで議論が深まると思われる。

(座長)

年2回、有意義な会議にするために優先順位をつけてどのような準備をするのか。
将来的には、例えば市民が手に取りやすいリーフレット作成のためのグループ
を作るなど、具体的取り組みがあると良い。自分の事として動ける推進協議会と
なるために次回までの宿題としたい。気づいた点等を事務局に知らせてほしい。

(大滝構成員)

計画を実行するための意見を積極的に提示してほしい。
例えば、周産期に関しては、精神科・産婦人科・小児科の各医会、行政が連携し
ネットワークを築いている。また、こどもとSNS問題も深刻であり、対策が必要と
なっている。実効的案を挙げていただきたい。
質問として、京浜急行では、京急横須賀中央駅にホームドアができる具体的計画は
あるのか。

(田中構成員)

京浜急行ではブルーライトを設置し、気分を落ち着かせることが自殺対策と聞いている。ホームドアについての情報は今のところ把握していない。

(座長)

ホームドアの設置、高い橋の欄干に塀を築き自殺を防ぎましょうといった、様々な取り組みなどの議論も、今後必要となるのではないか。

(座長)

最後に副座長から全体を通してのまとめをお願いしたい。

(副座長)

いかに市民の関心を得ていくのか。街頭キャンペーンなどで受ける、自殺という言葉に反応し、自殺は関係ないという考えをどのように変えていくか。また、SNSにどのように対応していくのか等考えていかなければならない。

自殺対策計画は策定、推進と進む中で、重要な課題は明確化されてきた。

横須賀市独自の取り組みが、更に推進されるとよいと思う。

(事務局)

確認事項として、今後の連絡会について、現在参加されている関係機関、団体は、継続参加が可能か。また、事務局として提案した、新たな団体等の参入については賛同いただけるか。さらに参入が望まれる機関、団体等があればご意見をいただきたい。

(構成員)

承諾

(座長)

新たな会議の名称を自殺対策推進協議会とすること、並びに現在の庁外構成委員の継続については、合意を得た。

自殺対策推進協議会の新規参入構成員メンバーについての意見があれば、1月21日までに、事務局へ連絡を入れる事とする。

(事務局)

追加意見については座長と協議の上、決定とすることとしてよろしいか。

(構成員)

承諾。

(中島構成員)

3月9日、大津コミュニティーセンターで講演会を開催する。テーマは「大人の発達障害」、事前申込は必要ない。周知をお願いしたい。

(事務局)

3月自殺予防月間に自殺予防街頭キャンペーンを実施する。

次年度の連絡会は名称を改め任期2年とする。

6 閉会